

## 最近の症例から (1) ——急性骨髄性白血病——

五十嵐克志, 古澤清文

松本歯科大学 口腔外科学第2講座 (主任 山岡 稔 教授)

患者: 58歳, 男性

初診: 昭和61年10月28日

主訴: 舌背部の接触痛.

家族歴および既往歴: 特記すべき事項なし.

現症歴: 昭和61年8月頃より, 舌背部に小潰瘍を形成し接触痛を覚えたため, 昭和61年10月初旬に某内科受診. 抗生物質の投与を受け, 舌の接触痛は改善傾向を示したものの潰瘍が消退しないため紹介にて当科を受診した.

現症

全身所見: 体格中等度, 栄養状態良好にて他に特記すべき事項なし.

局所所見: 顔色はやや青白く, 右側顎下リンパ節は大豆大1個と小豆大1個, 左側顎下リンパ節は大豆大1個と小豆大2個, 右側浅顎リンパ節は示指頭大1個触知し, いずれも可動性で圧痛を認めなかった. 口腔内所見としては舌背のほぼ中央に17×12 mmの菱形の潰瘍部と同部に軽度の接触痛を認めた. 潰瘍周囲には, 硬結は触知しなかった (写真1).

臨床検査所見: 血液一般検査にて, 汎血球減少症と白血球分画に Promyelocyte 等の増加を認めるとともに, 血沈値の亢進も認めた (表1).

臨床診断名: 急性骨髄性白血病

表1: 初診時臨床検査成績

(血液一般)	
白血球数	$10 \times 10^2 / \mu l$
赤血球数	$251 \times 10^4 / \mu l$
血色素量	9.4 g/dl
ヘマトクリット量	26.5%
血小板数	$4.4 \times 10^4 / \mu l$
血沈値	55 mm/h
白血球分画	
Promyelo	8%
Myelo	7%
Metamyelo	2%
Stab.	3%
Seg.	17%
Eosino.	
Baso.	
Mono.	
Lympho.	60%
Atyp Lympho.	3%



写真1